

25/9/22 名古屋市会本会議 浅井正仁市議質問（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

浅井正仁市議（自民）：続きまして、名古屋城天守閣木造復元について2年前の市民討論会の差別事案を受けて、この間検証委員会の最終報告を経て去る5月に観光文化交流局において、名古屋城天守閣整備事業進め方に係る総括がまとめられ経済水道委員会に報告がなされました。

当時の資料を見返すと、観光文化交流局としての総括を行った後に議会へ報告がなされ、その後障害者団体等への説明と、事業の進め方の議会や市民への説明があった上で事業の再スタートとあり、今まさに障害者団体等への説明を行っているんだと思います。そこはしっかり説明をしていただき、きちんとした形で事業の再スタートを切っていただくことが大変重要だと思うので、丁寧な対応をお願いしたいと思います。

その上でこの事業を進めるにあたってもう一点重要な観点があると思っています。

それは天守の木造復元に向けた市民の機運醸成、今後再スタートを経て事業を丁寧に進めていった先には、バリアフリー方針を含めた基本計画の取りまとめへ進んでいきます。

そして次の段階で、文化庁の復元検討委員会に提出し、文化庁との合意形成を図っていくというフェーズも見えてきます。だが果たして現状のままで文化庁は許可を出すのだろうかとは私は疑問に思っています。

観光文化交流局がまとめた総括の資料を見ると、木造復元に向けた技術的な手順については、私がかねがね言ってきたような流れに沿っておりこれはこれでいいと思います。

そうすると足りないのは何か、それはすなわち機運醸成ははっきり言って木造復元に向けた機運については全くと言っていいほど高まりが見られてないのではないのでしょうか。

このような機運が高まっていない中で、果たして文化庁は許可を出すのだろうかとは疑問に思っています。

少し前のある場所で、私は中区の区政委員をしているという高齢の方から声をかけられました。

男性からは浅井議員の本会議の質問いつも楽しみにしていますよという温かいお言葉とともに、私が生きているうちに木造復元された天守は見られないねという諦めの言葉を投げかけられました。

湧き上がる市民の機運どころか諦めへと変わりつつあるのが今の現状です。今のままでは木造復元をしたいのは、役所だけではないのか、河村前市長だけが

やりたかったのではないかと言われかねない。

木造復元のような大きな事業を実現するには、戦後鉄筋コンクリート造で天守閣を再建したときがそうであったように役所だけではなく、オール名古屋で取り組むことが必要不可欠なのだが、現時点でそうした市民理解と機運の高まりは全く見られない。

3月の本会議において市長は、木造復元を進める上で欠くべからず4要素として、石垣の保存対策を含めた史跡の保護、現天守閣の価値の評価、機運醸成そしてバリアフリーとの両立ということを言われました。私は事業この再スタート後を見据えて、今のうちから機運醸成に向けた準備をしていくべきではないかと思っています。

例えば機運醸成の加速化に向けて、他の城郭でも積極的に取り組まれているような立体映像を作り、現在の天守閣の価値を評価するとともに、復元に対する市民の期待感を創出していったらどうか。

また、そうした機運醸成には場所が必要であります。

例えば令和元年度に、木造天守の実物階段模型を展示する施設として開館した階段体験館・ステップなごやはどうでしょうか。

現在、十分に活用されているとは言えない中、このステップなごやを機運醸成の拠点として位置づけ、もっともっと有効活用してみてもどうでしょうか。そこで観光文化交流局長さんにお尋ねします。

長らく止まっていたこの天守閣整備事業もいよいよ再始動する。そして機運醸成を加速させるタイミングもやってくる。そうしたときに速やかに動き出しができるよう、今のうちに手を打って置くべきだと考えますが、先ほど私が申し上げたような提案も含め、局長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

そして最後に名古屋城の鹿について質問をさせていただきます。

議長6月の本会議で取り上げさせていただきました。

名古屋城の鹿、もみじちゃんとやまむらちゃん。

もみじちゃんとやまむらちゃん、この2頭の鹿はあれ以来大人気で。

しかしこの2頭もいずれ死んでしまった時、名古屋城から鹿はいなくなってしまう。意を決して鹿を貰おうプロジェクトを、今年5月に私と名古屋城課長の2名で立ち上げさせていただきました。

もみじちゃんとやまむらちゃんは、和歌山城から譲り受けた子孫とされており、今年の5月には本家の和歌山城に鹿を譲ってもらえるよう交渉したところ、雄鹿が去勢していたこともあり断念。

そこで同じ和歌山のアドベンチャーワールドに鹿の譲り受けの交渉ができないかと市長に質問させていただき、市長からは担当職員を派遣させるとご答弁をいただきました。

本会議終了後この鹿に関して反響が大きく、全国各地から多くの提案意見が名古屋城に寄せられました。

提案の中にはどこどこ鹿をもらってくださいという多数の有力情報がありました。

その中で、とある県の職員さん鹿が増えすぎているので、うちの動物園の鹿を譲ることはできますよといった嬉しい話もありました。

すぐさま 2 人でプロジェクト会議を開き、この動物園のある地域はこの名古屋とも武将隊繋がり名古屋にもゆかりのある地域でした。

だから、アドベンチャーワールドに行かなくていいんじゃないのなど、いろんな観点から相談している中、私のところに 1 本の電話がありました。「名古屋城のニュースを見ました」。

要点は 2 点。1 点目、京都の鹿をもらってください。

そして 2 点目、名古屋城の鹿が今後も健康で穏やかに過ごせるよう可能な限りの改善について検討をお願いしたいので、ぜひ名古屋城の鹿の環境を聞かせていただきたいというものでした。

電話の相手は鹿の本場の奈良女性の方でした。神様の神と鹿と書いて神鹿（しんろく）を守る有志の一同代表の方でした。どれだけ雄鹿かなのかなと思いました。

では、名古屋城に来てくださいとなり、8 月 12 日に奈良市、大阪市、京都市在住の 3 名の女性の方が名古屋城に見えました。そのときに悲しい悲しい話をされました。

現在、京都市宝ヶ池の鹿たちが全頭殺処分の対象となってしまう毎日心配ではありません。既に半数が処分されたと聞き胸が張り裂けそうです。もちろん動物が苦手な方もいますし、人との共生が難しいことも理解している。

でもあの鹿たちは地域の癒しでした。私のように日々愛らしいバンビや微笑ましい親子の姿を目にしたり、声をかけるのを楽しみにしている市民たくさんいます。でもどれだけ話しかけても、言葉が通じるわけではありません。だからせめて安全なところに逃げてくれたらと願うばかりです。

そんなとき名古屋城で鹿を探していると知り、藁にもすがる思いでご相談にきました。

どうかどうか一頭でも命を助け生きられる場所を与えていただけないでしょうかと話されました。

鹿の命を想う 3 名の女性の気持ちに私は共感し、名古屋城で引き取ることはできないかと決意を固めました。

そしてこの話を聞いた課長と名古屋城の所長も感銘を受け、鹿をもらおうプロジェクトから京都の鹿を助けようプロジェクトに変わり、メンバーも 2 名から

所長が加わり3名になりました。

余談ですがそのときに何と聞いた所長の服がこれです。

なんと私と課長の知らないところで所長たちは有志で、この鹿のTシャツを作っていました。

後日、売店で売られるようになりますので、皆さんご購入をよろしく、どこまで言ったっけ、そしてちょっと本題に戻りたいと思いますので、京都の実情を聞いた私達は、私達3名はこの話が本当ならば、京都では街中で害獣なのかもしれないが、名古屋城には鹿が必要。ましてや今年生まれたばかりの子鹿であっても京都では殺されてしまうとわかっている命を助けることで、名古屋城の新しい歴史が後世に語り継がれるだろうと話しました。

そしてしばらく経ったある日3名の女性が京都市役所に話を伺いに行くというので、私も同行させていただきました。そこでお聞きしたのは、殺処分を担当されている京都市農林振興課さんからの「殺したくて殺すわけではないので一頭でも命が助かるのであればそれは望ましいことです」との発言です。

名古屋城での受け入れに対して前向きなご理解をいただきました。この言葉が一番私が知りたかった内容でした。

今回の引き取りは、いわば保護鹿として殺処分の対象となっていた命に、新たな生きる場を提供する取り組みです。それは単なる飼育や展示ではなく、命の尊さや自然との共生について子供たちや市民が学ぶ貴重なきっかけにもなります。野生動物との共生を考えさせられる昨今ではありますが、限られた範囲であっても、救える命に向き合う事例を市民とともに作っていきたいと願います。現地の宝ヶ池公園にも行ってきました。鹿が数頭いました。

宝ヶ池近くの鴨川の上流、高野川に鹿はいました。

そして今日お見えになってる方が写真を提供してくれました。市長、これ親子なんですよ。

これが京都にはいます。京都の役所の方の話では80数匹殺処分する。この8月行ったときには40頭殺処分したと。残りあと40頭、そして8月か先週かの間で10頭、殺されましたということでございまして、この鹿たちはいずれ殺されてしまいます。そこで観光文化交流局長さんにお尋ねいたします。

京都宝ヶ池公園の鹿を助け、名古屋城で引き取ってあげてはどうでしょうか。お答え願いたいと思います。これで1回めの質問を終わります。

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局には2点のお尋ねをいただきました。

最初に、名古屋城天守閣木造復元についてでございます。

名古屋城天守の木造復元の推進に向けては、まずはバリアフリー方針の策定を始め前の課題を一つ一つ解決していく必要があります。その一方で、木造復元

に対する市民の理解促進や気運の高まりが不可欠であり、同時並行的に進めていく必要があると認識しております。

そのためまずは市民説明会の開催等を通じて、事業の進捗状況を丁寧に説明するとともに、各種イベントの機会を捉えて、事業の意義や木造復元後の天守の素晴らしさを広くPRしてまいりたいと考えております。

また、議員ご提案の木造復元後の天守のイメージを広く市民の皆様に届けられるような、立体映像を含むデジタル技術を活用した取り組みや、階段体験館のステップなごやの有効活用について機運醸成に向けた有効な方策であることから、事業の再スタート後を見据え、早急に具体策を検討し準備を進めてまいります。

次に名古屋城の鹿についてでございます。

名古屋城の鹿につきましては、6月定例会本会議質問以降、内堀を覗き鹿を探す人が増えたと感じております。現在観光文化交流局において鹿を受け入れることについての課題の整理を行っており、現在2頭いる鹿に与える影響や、新たに鹿を迎える場合の適切な環境の提供など、様々な課題に対して慎重に検討を進めているところでございます。今回ご提案いただいた鹿を受け入れることにつきましては、野生の鹿であることへの対応や課題を整理し、新たに検討していく必要があると考えております。

現在2頭の鹿、新たに受け入れる鹿、双方のシカに過度なストレスを与えないようにし、生命を取り扱うことに対して責任感を持って対応してまいります。議員ご提案の京都市の宝が池公園の鹿の件につきましてはまずは京都市に出向き、調整を進めてまいります。

浅井正仁市議（自民）：続きまして観光文化交流局から、名古屋城天守閣木造復元これはちゃんと市長はじめ皆さん聞いていただきたいと思うんですけど、観光文化交流局長から立体映像を含むデジタル技術を活用した取り組みを検討するとの答弁がありました。確かにどんなものができるかを知らせてもらうことも機運醸成の一つ。

しかし大切なことを忘れていると思います。

名古屋城も含め、木造復元は四つの要素が揃ってこそできる、つまり史跡を保護しかつ現在の天守閣の記録を保持し、かつ史跡の上に再建するという機運が高まり、かつバリアフリーと両立ができて初めて文化庁から許可がもらえると思ってます。

先ほど局長の答弁ではこんな素晴らしい木造天守閣ができるということはわかります。

だけど今の天守閣を解体して国宝である石垣の上に再建したいという思いは全

く伝わってきません。

私が思うに文化庁が求めている機運醸成というのは文化財的な価値のある、今の天守閣を解体してでも国宝である石垣の上に木造で復元したいという機運醸成、局長もう一回言うね。

文化財的価値のある今の天守閣を解体してでも、国宝である石垣の上に木造で復元したいという機運醸成、復元だけしたいなら、名城公園でも平和公園で東山公園でも、どこだっていいですよ。

国宝の石垣の上に何としても復元したいという強い機運醸成が必要だから、復元する木造天守閣を立体映像にただけでは駄目だと思います。要は立体映像を作るなら四つの要素を全て取り入れて作らないと意味はありません。私が考える立体映像の構成案ね。

最初に空襲により焼失する名古屋城から始まります。次に、戦災復興の象徴として、そして名古屋市民の心のよりどころとして、多額の寄付により再建された現在の天守閣の記録を立体映像として記録。そして最後に木造復元に天守閣について、バリアフリーと両立した内容を立体映像として作成する。このように、機運醸成に向けた立体映像はこれから何を作るかではなく木造復元に向けたストーリーが必要だと思っています。

このストーリーに共感する機運が高まってこそ、国宝石垣の上に現在の天守閣を解体してでも新たに木造で復元ができることになると思います。そしてこの現天守の価値の評価を記録として保存すること。この現天守の価値の評価を記録して保存すること。つまり、戦災復興の象徴、名古屋市民の誇りとして長きにわたり名古屋の象徴でもあった。現在の天守閣の記録をいかに残せるかが重要な鍵になると思っています。こうした記録保存ができなければ、解体もできないかも知れません。市長よく考えていただきたいと思っています。

これについては次回に具体的な取り組みについて質問したいと思いますので、それまでにしっかりと考えていただきますよう要望させていただきます。

そして鹿についてであります、これは再質問をさせていただきます。

市長さんに再質問をお願いしたいと思っています。先ほどの局長の答弁を聞いてちょっとがっかりしました。

確かに、新たに受け入れる鹿の名古屋城の環境に馴染めるかなどが問題になるのはこれはわかります。

でも市長、京都の鹿はこのままだったら殺されるんですよ。殺されるより悪い環境ってあるんでしょうか。

ないですよ、市長、今日この会場にもね、奈良、京都、大阪、皆さんが来てくれています。

市長、課題のあるのはわかりますが、これのんびり検討しているうちに一頭ま

た一頭と殺されていきます。

今だって殺されているかわかんない。12月までに京都は鹿ゼロにするって言ってんです。

つまり検討しているうちに救える鹿の命がどんどん消えていく。これも今日見えてる方が写真撮ってきてくれました。宝ヶ池のね。

市長この鹿さんも助けてって言ってんですよ、市長の決断で消えゆく命が救える。

そんな歴史の1ページを、市長作っていただけませんか。答弁をお願いします。

広沢市長：名古屋城の鹿につきまして再度お尋ねをいただきました。

京都市宝が池公園の鹿の気持ちを考えてみますと、仲間が罠にかかったりいつ殺されるかわかんない。

そういう恐怖におびえながら毎日を過ごしていることとします。

私も命を預かっているものとして、何とか助けてあげたいという思いを強く持っております。

京都市からは年内に殺処分されると聞いておりますので、11月にはほぼできるように調整し12月を目途にできるだけ早く名古屋城に迎えることができるよう課題解決に向けて最大限努力をしております。

以上です。

浅井正仁市議（自民）：市長、ご答弁本当にありがとうございます。

消えゆく命を何とか助けたいと、大変温かい心意気のある寛大な答弁だったと思います。

この鹿さんもさっきは助けてって市長に言ったと思うんだけど、今はありがとうに変わったと思います。

ところで、6月の私の本会議において、もう一つ、市長とお約束をいただいたことがあります。

今いるこのもみじちゃんとやまむらちゃん、名古屋城のウェブサイトなどで名前の周知を行っていただくとお約束をいただきましたが、一向に確認が取れてません。市長、どうなっているのかお聞かせ願いたいと思います。

すいません。

広沢市長：名古屋城の鹿につきまして再度のお尋ねをいただきました。

名古屋城にいる2頭の鹿のもみじちゃんとやまむらちゃんの名前の周知につきましては現在名古屋城公式ウェブサイトへの掲載の準備を進めておりまして、速やかに周知をしております。なおもみじちゃんとやまむらちゃんの名前を

使用することにつきましては、俳優である山村紅葉さんの所属事務所に確認をいたしました。連絡を取った際、6月定例会における浅井議員の質問により、名古屋城の鹿が大きな話題を呼んでおり、既に山村紅葉さんも把握をされておられご快諾をいただくことができました。  
以上でございます。

浅井将仁：ご答弁ありがとうございました。

市長、山村紅葉さんに感謝感謝ですよ。めっちゃいい話じゃないですか。これ今回の京都の鹿の話もめっちゃいい話ですよ。命は地球より重い。今にも殺されそうな京都の鹿さんに命のビザを発給するストーリーをぜひ実現したいと思ってます。

奈良の神鹿の方も話を聞かしてくれて本当にありがとうございました。

それからこれに共感してくれた名古屋城の職員も最高だと思います。

それから、何より野生の鹿を殺される鹿を引き取ってくださるといった市長さん最高です。

ありがとうございました。

これで私の質問を全て終わらせていただきます。